



APAYeNEWS

アジア・太平洋 Y M C A 同盟月報 No.02/2011 年 2~3 月 翻訳：永岡美咲（日本 Y M C A 同盟）

1. 災害についての最新情報

日本での地震と津波

3月11日、マグニチュード9.0の地震とそれに伴う津波が日本の東北地方を襲ってから3週間経ちました。最新のニュースによると、13,000人もの方々が亡くなり、13,000人以上の方々が行方不明となり、何十万人もの方々が家を失ったとのこと。死傷者の数は増え続けており、機能停止に陥った原子力発電所は、深刻な状況のままとなっています。

日本 Y M C A 同盟島田茂総主事によると、日本 Y M C A 災害支援本部を立ち上げ、被災地域において、地域の人びと、子どもたち、また障がい者や特別な支援を必要とする方々、高齢者などのニーズに応える働きをしています。盛岡 Y M C A は、最も被害の大きかった宮古市にボランティアやスタッフを派遣し、教会とともに活動をしています。仙台 Y M C A は、地震直後から被災者への食べ物や場所の提供をし、3月22日にボランティアセンターを設立しています。茨城 Y M C A は、福島原発の放射能被害から避難してきた家族に対し、子どもたちの世話やレクリエーション・プログラムを行っています。とちぎ Y M C A は、避難所にいる高齢者への日帰りサービスなどを行っています。東京、横浜、京都、神戸等の全国の Y M C A と日本 Y M C A 同盟は、被災地にスタッフを派遣し、状況の把握と被災者のニーズを探り、支援を進めています。ワイズメンズクラブは東京 Y M C A と協働し、緊急物資を現地に送りました。国際青少年センター東山荘では、原発退避区域から15名の受け入れを開始しました。日本 Y M C A 同盟は、災害支援に関する NGO をはじめとする民間団体で構成される東日本大震災支援全国ネットワーク (Japan Civil Net) に参加・協力し、被災者支援を行っています。全国の Y M C A では募金活動を推進すると共に、中長期的な復興計画に向けて協議や準備を進めています。

「日本各地の Y M C A は団結して、募金活動をし、この惨事を乗り越えようとしています。皆様の温かい支援に感謝します。また、アジア・太平洋同盟 (以下 APAY) の取りまとめに感謝します。引き続き支援と連帯をお願いします」と島田氏は締めくくっています。

被災地における Y M C A の活動



APAY ウェブサイトにさらに多くの写真を掲載しています...

* 上記は、アジア・太平洋 Y M C A 同盟による記事です。最新情報は、日本 Y M C A 同盟ホームページをご覧ください。なお、アジア・太平洋 Y M C A 同盟を通して、アジア・世界各国より多大なご支援、お祈りを頂いていますことを感謝をもってご報告します。

ニュージーランド・クライストチャーチでの地震

去る2月22日、ニュージーランドのクライストチャーチ市に甚大な被害を与え、多くの犠牲者を出した地震が発生しました。YMCAの会館の建物や設備にも相当な被害があり、活動を停止しました。地震発生から1ヶ月以上経ってからの、YMCAクライストチャーチのJosie Ogden Schroeder 総主事からの報告を抜粋します。

地震により家族や友人を失ったYMCA会員やスタッフに、思いやりや愛をもって悲しみや祈りを示します。この状況を言い表すのに十分な言葉はありません。私がただ言えることは、私たちは皆様とともに喪に服し、亡くなった方々の思い出を常に忘れずにいようと決意すること、そして私たちがコミュニティとしてできる重要なことは、未来に目を向けることです。私たちは、スタッフや会員、参加者やお客様に対してできることに集中しています。タイムリーなサービスや活動再開に関する情報、現在適切なサービスを行うことが、重要なことでしょう。私たちは学校や生徒たちとも協働し、学校とともに通う生徒たちや、家から離れ、学校に戻るのに少し「びくびくしている」子どもたちへの支援を行っています。私たちはまた、クライストチャーチ東部のコミュニティで、学校や家を失った方々対象のファミリーキャンプをしています(この件に関する情報については、遠慮なくご連絡ください)。

引き続きYMCAへの支援をしてくださる皆様に感謝いたします。私たちは、YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。

クライストチャーチYMCAのウェブサイトによると、コミュニティプロジェクトでの募金活動も行われ、また日本での大災害に対する募金活動も行われています。最新の情報については、www.ymcachch.org.nz/をご覧ください。

*ニュージーランド地震では、富山YMCAに関係する方々が被災され、若い方々が亡くなりました。心からご冥福をお祈りします。(日本YMCA同盟)

すべての報告や最新情報はアジア太平洋同盟のウェブサイトからダウンロードできます。スリランカYMCAでは緊急対策事業の第1フェーズが完了し、報告がAPAYウェブサイトに掲載されます。

謝辞

YMCAファミリーやパートナーから義援金・募金をいただきました。

クライストチャーチ地震への緊急募金

APAY、日本YMCA同盟、アルゼンチン、カナダ、シンガポールとアメリカのYMCAより

日本地震への緊急募金

APAY、香港同盟、ミャンマー、パキスタン(ラホール)、フィリピン(バギオ、マカティ、マニラ)、シンガポール、台湾(台北)、アルゼンチン、カナダ、ドイツ、ウルグアイ、Yケアインターナショナルと、HAI-EAPRDC(ヘルプ・エイジ・インターナショナル・東アジア太平洋地域開発センター)より

*この他、アメリカ、中国(成都)、シンガポール、ソウルより頂いており、その他もお申し出を頂いております。改めて正式に別途ご報告します。(日本YMCA同盟)

スリランカ水害緊急募金

日本YMCA同盟、シンガポール、香港、ドイツ、アメリカより

いくつかのYMCAでは、災害で被害のあった地域のYMCAの働きを支援するため、現地派遣を組織したり、会員を動員したりしています。その他のYMCAは、初動支援に引き続き、募金活動を継続しています。寄付についてはAPAY事務局をお訪ねください。また、最新情報・募金活動に関する意見をお寄せください。

私たちは深い哀悼の意を表します。私たちは一体となって、災害を克服するための慰め、精神力、勇気となり、生活やコミュニティの再建をお祈りいたします。

2. 常務委員会、山田総主事の任期の延長と新しいガバナンス構造を採択

去る2011年3月9日～12日、香港中華YMCAにて開催された常務委員会に、21のYMCAからの100名以上の代表者が出席しました。通常の委員会の会議に加え、新しいガバナンス構造の提案について焦点が当てられました。6名の役員と、4年間常勤のできる他2名によって構成されるAPAY委員の選挙に関する会則を改正しました。新しい委員にユースや女性が就けるよう優先権を与えるという選挙のガイドラインや付則は、今回の会議の承認に従って改正される予定です。各YMCAでは、委員を任命・選挙する際、年齢、性別や各地域の間でのバランスを取る必要があります。新委員は、付則に従って、通常のAPAY役員会で選出されます。

APAY総主事山田公平氏の任期を、定年を66歳までと1年延長し、2015年の次期APAY総会までとすることが、常務委員会によって決定されました。理事パク・ジェチャン氏のコメントと、総主事による2010年度年次報告が行われました。3月7日の夜から9日の朝まで、総会に関連する会議（ユース会議や4か年計画（QPP）の評価）が同時進行で開催されました。各国同盟の総主事会議は3月8日に開催されました。香港にある2つのYMCA主催による晩餐会が盛大に行われました。

3. 第18回アジア・太平洋YMCA大会 - 準備委員会が予定を最終決定

総会準備委員会の最近の会合で、APAY総会プログラムの詳細が最終決定されました。ライティング・チームとユース大会準備委員会のメンバーがその後、準備委員会に参加しました。戦略的対話、ウィットネス・ルーム（証言）、エクスポージャーや他のプログラムの内容がまもなく発表されます。「グリーン・アセンブリー（緑にやさしい会議）」が推進され、APAYグリーン・チームが作成したガイドラインが参加者に周知されます。

* 第18回アジア・太平洋YMCA大会/第2回ユースアッセンブリーの第1報を最終ページに掲載しています。そちらをごらんください。

日本YMCA同盟より4月下旬に第2報（参加費等詳細・申込書付き）を全国のYMCAに発信予定です。（日本YMCA同盟）

4. 第2回ユースアッセンブリーで「壁を乗り越え、変革を人と社会とYMCAに」

去る3月8日～9日香港で、APAYユース委員会とホスト委員会の主要なメンバーで構成される第2回ユース会議（YA）準備委員会によるYAの準備が開始されました。YAは、2011年9月3日～6日にマレーシア、ペナンで開催されます。すべてのYA参加者は、9月6日～10日に開催されるアジアYMCA大会への参加も望めます。

APAY大会のテーマ「壁を乗り越え、変革を人と社会とYMCAに」を採用し、YAではユースを各YMCAの不可欠な部分とします。この会議では、ミッションや目的を再検討（*Revisit*）する際、自分たちの可能性に気づく（*Recognize*）ことを想定しています。インプットのためのプレゼンター

ション、戦略的な話し方（対話）、ワークショップ、地域奉仕活動などさまざまなアクティビティーが YA の特徴です。ユースが創り出す新たな（*Renew*）コミットメントと責任（*Responsiveness*）とともに、壁を乗り越え、変革を人と社会と Y M C A にもたらしましょう！

5. すべての APAY プログラム・行事に 15US ドルのグリーン・ファンド（緑募金）

APAY の行事において、二酸化炭素の排出を抑制する（カーボン・ニュートラルにする）ため、APAY の国際的な行事・プログラムの全参加者から、15US ドルのグリーン・ファンド（緑募金）を徴収することを、常務委員会が決定しました。この募金は、参加者が航空機移動をする際に排出する温室効果ガスを相殺する私たちの手段となります。この募金は、適切な代替エネルギーや、地域の Y M C A が行う他の環境保護プロジェクトのために用いられます。

6. 各地域で地球市民育成指導者トレーニングを開催予定

今年の地球市民育成（GCE）指導者トレーニング（ToT）の地域で行われる予定です。東南・北東アジアのトレーニングは、7月3日～9日にフィリピンのマカティで開催され、南アジアのトレーニングは7月の最終週にインドのアルワイで開催されます。

トレーニングは、GCE プログラムに参加し、より多くのエクスポージャーの機会を与え、地球市民や社会的責任に関するスキル、知識や理解を向上させるために必要となる、有効なツールとなるでしょう。同時に、各々の事情に応じ相乗効果のある GCE の中で、参加者を異なった領域において関連する問題の全体像について経験し、それぞれのローカルなアクションを、GCE を通し主流化することができるよう、動機づけるものとなります。

プログラムの詳細は、各国 Y M C A に送付する予定です。

今年、*APAY* パートナーシップ・プロジェクト（*APP*）は、地球市民育成に密接に関連しています。フィリピンとインドでの GCE ToT の後、第 1 次グループの受給者が選出されます。この基金はワイズメンズインターナショナルのタイム・オブ・ファスト（断食の時）によって、援助されています。詳細は各国 Y M C A にまもなく送付されます。

7. 各国 Y M C A の最新情報

ナム氏が韓国 Y M C A 同盟総主事に就任

ナム・ブウォン氏は、光州 Y M C A 総主事としての 4 年間の任期の後、2011 年 3 月 2 日より、韓国 Y M C A 連盟総主事に就任しました。韓国 Y M C A 連盟総主事として、韓国の Y M C A 運動を人生（Life）と平和において深化させることを望んでいます。彼はまた、現在の「ネオリベラル・グローバリゼーション」に呼応して、国境を越えた地球市民に関するプログラムを発展させるという方針を示しました。

ナム氏は、1998 年から 2002 年までリーダーシップ形成、市民社会開発、ユース・ジェンダーを担当した、元 APAY 主任主事としても知られています。1985 年に、韓国 Y M C A から派遣された韓国 4 地域のワイズメンズインターナショナルの担当主事となり、ナム氏は Y M C A でのキャリアをスタートさせました。ソウル Y M C A では市民社会創造に関する分野での計画・意思決定を担当し、また APAY100 周年記念式典を担当しました。女性の会員に完全な投票権を付与するよう組織的に訴えるなど、Y M C A を改革する運動を行いました。その後、韓国連盟で 2 年間プログラム・意思決定を担当する主任主事として奉職されました。地球市民に関するプログラムを開発するため、イギリスのバーミンガムで地球倫理を研究されました。地球倫理の修士号を取得された後、韓国に戻り、光州 Y M C A 総主事に就任。

前総主事イ・ハギョン氏の在任中の尊いお働きに感謝の意を表し、ナム氏の就任をお祝い申し上げます。

Y M C A フィリピンでユースリーダーとキャリア・ディベロップメント・プログラム参加者を招待

フィリピン Y M C A の 100 周年記念の一環として、フィリピン Y M C A Rizal ユースリーダートレーニングセンター2011 を APAY 加盟団体に開放します。これは、2011 年 5 月 15 日から 31 日まで Biga、Silang、Cavite にある La Salette Shrine と Retreat Center で 15 日間行われる研修です。今年のテーマは「100 周年に際して：Y M C A は生活やコミュニティーは変革し続ける」です。研修の目玉は、Y M C A のうちにとどまらず、グローバルガバナンスにおいても価値のある若いリーダーを育成するために、変革するリーダーシップスキルを身につけるということです。

同様に、フィリピン Y M C A は、Y M C A 職員に就きたいと考えている若い専門家対象を、基礎研修となるキャリア・ディベロップメント・プログラム (CDP) へ招待します。Y M C A 運動の 3 本柱を強調し、さまざまな Y M C A 運動を成長、促進するため、Y M C A の専門リーダーを組織することがこのプログラムの重要な課題です。この研修は Cavite で 2011 年 9 月 22 日から 10 月 8 日まで開催される予定です。

詳細と参加については、Y M C A フィリピン (ymcaphilippines@yahoo.com) までご連絡をお願いします。

8. 最新情報：Y M C A フェロー・フォー・ユース

2010 年 12 月 1 日から 2011 年 3 月 31 日の第 1 期 Y M C A フェロー・フォー・ユース (Fellow of Youth) のキャンペーンでは、35 フェローからの寄付をいただきました。各国やローカルの Y M C A から、また主に Y M C A 常議員やスタッフなど個人からの寄付がありました。35 フェローの属する 2 つの Y M C A (*日本の Y M C A はその一つ) からは、毎年 10,000US ドルを寄付があり、合計で 54,000US ドルとなりました。Y M C A フェロー・フォー・ユースの証書を送り、すべてのフェローの方々へ「小天使」像が送られました。

先にも述べたように、寄付金は地球市民育成 各国や地域における指導者養成、ユース大会への参加助成金、ユースのための活動や、より多くのインターン学生への支援 といった、ユース・ディベロップメント・プログラムに用いられます。APAY は以上の使途に関する報告を提供します。

フェローのリストとキャンペーンのビデオは、APAY ウェブサイトで公開中です。ビデオは YouTube でもご覧いただけます。アドレスは

<http://www.youtube.com/watch?v=cHYT-K21pX0> です。

皆様の温かい支援に感謝いたします。学生たち自身も、APAY や加盟 Y M C A からの温かい支援にとっても感謝しています。次期キャンペーンは APAY の新しいリーダーシップによって 2011 年 12 月に開始されます。

9. 最新情報：Y M C A グローバル・オルタナティブ・ツーリズム

「真実探求の聖地巡礼 2011」トレーニング・ワークショップ開催

このワークショップは、オルタナティブ・ツーリズムを、コミュニティーと訪問者を変革するための社会運動の手段として捉えるものでした。今までのありきたりなツーリズムを巡礼の旅へと取って変える方法を探るため、異宗派間の協力フォーラム (ICF) ネットワークの運動家や Y M C A スタッフ、ボランティアが 24 名集いました。参加者は、それぞれのコミュニティーにおけるオルタナティブ・ツーリズムのあり方について意見を出し合いました。ツーリズムについての経験や、ツーリズムと巡礼の違いに関する研究をシェアしたり、変化のためのプログラム開発戦略について意見交換したりするなかで、各参加者の地域や国における現状を調査しました。Y M C A と同様の考えを持つ世界中の組織とのネットワークを構築することで、グローバル・オルタナティブ・ツーリズム運動 (GATM) を興すという、この問題に取り組むための提言を強化することができました。GATM のウェブサイトも開

設されました。APAY eNews前号にも掲載したように、リソースパーソンや専門家が招かれました。

2011年2月19日から25日まで、ネパールY M C A同盟とネパール学生Y M C A主催、異宗派間の協力フォーラム (ICF)、メノナイト中央委員会共催でワークショップが開催されました。

Y M C A グローバル・オルタナティブ・ツーリズムのウェブサイト

待望のY M C A グローバル・ツーリズムのウェブサイトが

<http://www.ymcaalternativetourism.org>

に開設されました。

オンライン予約可能な、オルタナティブ・ツアーの認証を受けている世界中のY M C A施設の情報を提供しています。Y M C Aのホテルやキャンプ場もリスト化され、オンラインでの問い合わせも可能になります。関心のあるY M C Aは、APAY 事務局 (jose@asiapacificymca.org) まで、オルタナティブ・ツアーや宿泊施設に関する情報をお寄せください。

10. ユース参加・開発プログラム

第 15 回日韓学生Y M C A交流プログラム



第15回日韓学生Y M C A交流プログラムが2011年1月6日～9日に韓国の長水 (Jung Su) で開催されました。今年のテーマは「コミュニティと学校/教育」です。このプログラムはお互いに学校の様子が似ている韓国と日本の学生にとってふさわしいものです。学校、学校生活、大学における学生のおかれた状況やそれぞれの国の学Y活動について、キャンプ中の議題として討論されました。夢の学校に焦点を当てたフォーラムも引き続き開催されました。キャンプの一部として、オルタナティブ・スクールへのフィールド・エクスポージャーも行われました。

韓国学生Y M C A会議 110 回記念回

去る 2011 年 2 月 11 日～13 日、春川において、韓国学生Y M C A 冬会議が「学生社会の再構築」というテーマで開催されました。特に会議では、大学に通う学生たちの学生社会の現状について、討論されました。韓国学生Y M C A の 110 回記念として、ロールプレイの発表や、各学Yの活動や現状をシェアすることを通じて、歴史を再検討しました。韓国学Y総会が最後に開かれ、任期 1 年の主事たちが選出されました。(イ・ジユン氏、国際交流リーダー、韓国学生Y M C A 同盟による報告)

* 日本から13名の学生Y M C Aメンバーが参加しました。



11. Y M C A 用オンライン二酸化炭素排出計算機

APAY グリーン・チームは、Y M C A の二酸化炭素排出量を測定するオンライン炭素計算機を開発しました。グリーン・チームの一員、オーストラリアの Colin Lambie 氏が開発において、重要なリーダーシップを発揮してくださいました。計算機は APAY ウェブサイトにあります。各Y M C A でも、エネルギー計算をするためにこの計算機をご利用ください。

12. ICF コーディネーターと第1回運営委員会開催

カンボジア、インドネシア、ネパール、フィリピンで行われた ICF「平和のための学校(SOP)」の修了者から選出されたコーディネーターと、タイ、ビルマでの合同コーディネーターを加え、ICFに新たな組織ができました。ICFプロジェクト主催者である APAY、アジアキリスト教協議会(CCA)の代表者と、ICF スタッフを交え、新コーディネーターによる会合と第1回 ICF 運営委員会がフィリピンのダバオで開催されました。2010年のICFの働きや、6カ国における過去の SOP 活動を評価し、2011年から2014年の行動計画について話し合いました。2011年に向けて APAY が計画したアクティビティーには、2月19日から24日にネパールのカトマンズで開かれたオルタナティブ・ツーリズムに関するワークショップや、昨年スリランカで開催された3週間の SOP と同様、7月9日から24日にバングラデシュで開催される短期の SOP、10月8日から16日にケーススタディーで用いられたインドのオリッサ州ブバネシュバルで開催される、紛争状態に関するワークショップがあります。



13. あなたの Y M C A の情報をお寄せください

各国 Y M C A にて行われているプログラムの報告、ニュース、情報をぜひお寄せください。この APAY e-News (月刊) で、各国・地域における Y M C A 活動のシェアすることが、それぞれの Y M C A での新たな活動への動機につながると考えています。ニュースや情報は、cristina@asiapacificymca.org までお送りください。締め切りは毎月第3週です。皆様の Y M C A 情報を求めています。

14. facebook 開設

APAY は facebook のファンページを開設しました。アジア太平洋同盟(Asia Pacific Alliance of Y M C A s)を検索し、「いいね！」ボタンをクリックしてください。ファンページは各 Y M C A やパートナーとすでにリンクしています。facebook の APAY ファンページであなたの Y M C A の最新情報を公開することができます。

15. 今後の予定

日程	イベント	場所
7月3日~9日	地球市民育成指導者トレーニング	フィリピン・マカティ
7月最終週	地球市民育成指導者トレーニング	インド、アルワイ
7月9日~24日	ICF 平和学校	バングラデシュ
9月3日~6日	第2回 APAY ユース大会	マレーシア、ペナン
9月6日~10日	第18回アジア・太平洋 Y M C A 大会	マレーシア、ペナン
11月14日~12月10日	第29回アドバンス・スタディーズ・プログラム	香港

16. 総主事デスクより...大災害、今何ができるのか。

3月11日、ちょうどAPAY常務委員会の時に最初の知らせが入ってきました。大きな地震が日本を襲った。そして大津波が。信じられないような話でした。それが何千、何万という命を奪い、45万人以上が学校などに避難をしているという大災害であったということです。そして次々と流れるニュースでは、物が足りない、水も食料も。雪が降るほど寒いのに、暖房も十分にできない、灯油がない、物を運ぼうにも道路も遮断されている、ガソリンも不足している。そして、追い討ちをかけるように福島原子力発電所の問題が発生しました。何とかしたいと思う人たちもその思いを実行に移せないというもどかしさがあります。

ニュースではさまざまな情報が流されてきました。東京では、スーパーから物がなくなっている。不安を抱える人たちが大量の食料や水を買いためしようと並んでいるというもの、一方で被災地の人たちは、この悲惨な状況にも関わらず、静かに現実を受け止めている様子、少ない食べ物や暖房のない状況のなかで、あまり不平もなく、被災者たちが一緒になって助け合っている様子、さらには救援に入った人たちやボランティアにも心を配っている被災者の様子が伝えられました。「日本人はどういう人たちなんだろう、この状況でものを奪い合う姿がないというのは。」わたしの知人は、こんなことを言っていました。「まだこんなことを言うには早い気もしますが、この大災害が一つの新しい社会秩序へのターニングポイントになるかも知れません。それは、Humility（謙遜）とSelf-restriction（自制心）の社会です。」確かにわたし達の社会（多くの先進諸国）では、便利で安心、電話も車も、交通もすべて整えられており、冷暖房が入り快適な住まい、食べ物も服も必要以上にあり、水は蛇口をひねれば出てくるという生活を当たり前のように感じています。しかし、この当たり前の生活を奪われたとき、自分たちは果たしてどう生きるだろうかと言うような問いかけが外国にいるわたしたちに向けられていると考える人たちもいます。

アジア太平洋地域にいるわたし達は、このような悲惨な大災害にたびたび出会います。この地域にあるYMCAとしてこのようなときに何をするか、何ができるかが常に問われています。実際には、YMCAやその関係者もそのような災害の被災者になるということも多々あります。アジア太平洋地域では、このような災害が、いつ起きても対応できる態勢と心構えが必要です。そのためには、他の災害から学ぶことも必要です。YMCAの職員やボランティアでチームを作り、災害時の対応やコミュニケーション方法をあらかじめ検討しておくことも大切です。災害時にいち早く状況判断をし、救援体制をつくり、国内外へのコミュニケーションをすれば、人も資金も、何とかしたいと言う人たちの心を合わせることが可能になります。

この半年だけでも、アジア太平洋地域では、パキスタン水害、オーストラリア水害、スリランカ水害、ニュージーランド地震、そして日本、さらには中国、ミャンマーやフィジーでも災害が起きています。今日本で被災地の方々がおかれている厳しい状況を見て、「我慢し、希望を捨てず、分かち合い、助け合い、そして人々の心といのちを感じる」という日本の姿に驚かされている人たちがいます。このような時、わたし達は人間として何が大切なのかを考えさせられます。そしてYMCAの働きは何かも。YMCAが各地域の人々と共に助け合い、分かち合い、励まし、そして地域の再建に役立つ基点となることを願っています。

アジア・太平洋同盟 総主事 山田公平
主任主事 Cristina A. Dalope & Jose Varghese

アジア・太平洋YMCA同盟

23 Waterloo Road, 6th floor, Kowloon, Hong Kong
tel. 852-2780 8347, 2770 3168, 2783 3058; fax 852- 2385 4692
e-mail - office@asiapacificymca.org



Breaking Barriers, Transforming Lives 壁を乗り越え、変革を人と社会とYMCAに



第18回アジア・太平洋YMCA大会 (マレーシア・ペナン)

ユースアッセンブリー: 2011年9月3日~6日

アジア・太平洋総会: 2011年9月6日~10日

4年に一度開催されるアジア・太平洋YMCA大会。アジア・太平洋地域において、いま、私たちが直面している課題を見つめ、今後4年間にわたるアジア・太平洋地域のYMCA運動の方針・計画を決定します。また開催に先立ち、第2回アジアユースアッセンブリーを開催。YMCA運動の担い手としての、ユースの交流、気づきと学びの時がもたれます。



【日本のYMCAから大勢の参加を期待しています】

アジア・太平洋YMCA同盟 山田公平総主事からのメッセージ

アジア・太平洋地域の多くのYMCAの課題は、既存する活動の運営に精力を注ぎ、刻々と変化する社会ニーズへの対応に遅れをとっているのではないかとことです。YMCAはどのようにこの壁を乗り越え、新しい課題に大胆にチャレンジしていけるようになるでしょうか。

ここ数年、アジア・太平洋同盟では、地球市民育成、YMCA運動強化、ユースリーダーシップの強化と寄付文化の醸成を挙げて活動を展開してきました。これらの活動をさらに広げるために、これまでの働きを評価し、関係する国々による課題を共有し、そして今後4年間の具体的な方向性について、9月の総会ではアジア太平洋地域の仲間とともに、考えたいと願っています。

(APAYeNews1月号より抜粋)

【予定されているプログラム】

- * 総会
(常務委員選挙、規程変更等の協議)
- * 基調講演
- * グループセッション
テーマ: 環境問題 / オルタナティブツーリズム / ジェンダー / ユース / リソース
- モビリゼーション / YMCA運動強化
- * 2007~2010年の事業計画評価
- * 礼拝
- * 各YMCAによる事例紹介
- * フィールドスタディ
- * カルチャープログラム

<総会に先立ち、過去15年間でまとめたアジア・太平洋YMCA同盟運動史が刊行される予定です>

【詳細及びお申込みについては、4月中旬ごろ(予定)日本YMCA同盟より全国のYMCAへお知らせいたします】

財団法人 日本YMCA同盟 〒160-0003 東京都新宿区本塩町7

Tel: 03-5367-6640 / Fax: 03-5367-6641 / URL: <http://ymcajapan.org/> E-mail: info@ymcajapan.org